

メッセージアウトライン

ヤコブの手紙 4:11~17「なすべき正しいこと」

[11-12]「兄弟たち。互いに悪口を言い合ってははいけません。自分の兄弟の悪口を言い、自分の兄弟をさばく者は、律法の悪口を言い、律法をさばいているのです。あなたが、もし律法をさばくなら、律法を守る者ではなくて、さばく者です。律法を定め、さばきを行う方は、ただひとりであり、その方は救うことも滅ぼすこともできます。隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか」

「兄弟たち」とは主イエス・キリストを信じ、神の子とされた者たち。主にある兄弟姉妹、信仰者、クリスチャンたちのことであるが、そうでない人たちでも、ここには学ぶべきものがある。互いに悪口を言い合ってはいけないというのは対人関係の基本中の基本であるが、実際にはしばしば脱線し、人を傷つけ、自分に対する信用を落とし、信仰的にいかに未熟であるかを周りの人々に示す結果となる。そしてこのようなことをしていることは、律法の悪口を言い、律法をさばいていることになる。なぜなら、律法、神のことばには神のみこころが示され、人の踏み行うべき正しい生き方が示されているからである。→詩篇 1:1、15:1~3

人をさばく者は「あなたの隣人を自分と同じように愛せよ」マタイ 19:19、レビ 19:18 という律法に違反することであり。この律法をさばいて自分をその上に置くことになる。

人をさばき、律法をさばくことのできるお方は、人を造り、律法を定められたお方、神しかいない。それなのに隣人をさばくあなたはいったい何者か。まったく何者でもない。それゆえ人は神の前に全く謙遜にならなければならないのである。

[13-14]「聞きなさい。『きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう』と言う人たち。あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それから消えてしまう霧にすぎません」

ここではユダヤ人の商人のことが想定されている。ユダヤ人は当時の世界において世界中に散らばり、貿易などにおいて非常な才能を発揮していた。→「使徒の働き」参照

ヤコブはこのように考える人々に警告し、あなたがたには、あすのことはわからず、そのいのちは、しばらくの間現れて、消えてしまう霧のようなものにすぎないと言う。→箴言 27:1、ルカ 12:15~21 さらに私たちが長寿を全うしたとしても永遠という尺度から見れば同様である。

では私たちはいつ死ぬかわからないから、無計画に生きるべきか。そうではない。

[15-16]「むしろ、あなたがたはこう言うべきです。『主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう』ところがこのとおり、あなたがたはむなしい誇りをもって高ぶっています。そのような高ぶりは、すべて悪いことです」

クリスチャンは、またそうでない人も、この世界を造り、支配しておられる全能なる神を勘定に入れて生きる必要がある。私たちはこの神に信頼し、その上でいろいろな計画を立てて、与えられた能力を最善に生かして生きるべきである。そして謙遜な心と信仰を持ってそのようにするのである。ところが実際には多くの人がこういったことを心に留めないで歩んでいる。神を信じて生きることは弱い人間のすることであると思っている人もいる。そして自分自身の力で生きていくことが強く確実な生き方のように思っている。しかし、それはむなしい誇りであり、高ぶりであり、神の前に悪いことである。やがて人生の嵐がやって来た時には持ちこたえることはできない。

[17]「こういうわけで、なすべき正しいことを知っていながら行わないなら、それはその人の罪です」

この節はこの4章全体の要約ともいえる個所である。なすべき正しいことを知ったならば、それを行いなさいという積極的な勧めである。知っていながら行わないならば、それは罪となる。やがて私たちはこの地上の生涯を終え、万物の造り主である神の前に立って報いを受ける時が来る。私たちがこの地上でなしてきたことに対して正しい報いが与えられるのである。願わくは主から豊かな報いが与えられるように、私たちは主のみこころに従ってなすべき正しいことに励む者になりたい。→ I コリント 15:58